

1 部

学習サポート

各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2019』にてご確認ください。
 - ・ p. 4～5→学年暦
 - ・ p. 16～21→通信教育部カレンダー
 - ・ p. 46～49→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
 - ・ p. 50～52→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

9 / 24 ～ 11 / 24 の追加・変更点

- 科目修了試験会場変更（詳細は p. 15～17参照）
 - 11 / 16水戸（変更後）中央ビル
 - 11 / 17釧路（変更後）釧路市総合福祉センター
- スクーリング追加開講「社会福祉援助技術総論」
 - ・ 11 / 9・10・17（仙台VTR） ※前号『With』138号 p. 30参照
 - ・ オンデマンド12 ※本冊子 p. 32参照

郵便料金の変更について

消費税率の改定に伴い、10 / 1以降の郵便料金に変更になります。つきましては、以下のとおりご注意ください。

- 科目修了試験申込みハガキ（10 / 1以降に発送される場合）
 - 63円切手を貼り付けください。
- 返信用封筒（証明書や学割の申込を9 / 24以降に発送される場合）
 - 念のため84円切手を貼り付けてください。

レポートの正しい書き方、 その中でも引用文献の使い方とは？

教員MESSAGE

福祉心理学科 准教授 中村 修

皆さん、日々の学習本当にお疲れ様です。さて今回、「レポートの書き方についてのアドバイスを2400字以内で」というオーダーをいただいて原稿を書こうとしているのですが、何を書いていいものやら少々困っています。でも、困ってばかりでもしょうがないので、あれこれ調べてまとめてみることにします。そして、「レポートの正しい書き方」ではかなり大まかなテーマになってしまうので、正しい書き方の中でも「文献の使い方」に絞ってみることにします。

まず、手元にあった「大学生のためのリサーチリテラシー入門」（山田剛史・林創著）という書籍にあたってみました。この本では「引用の記述」に関して、「入手した文献から、自分で考えたかのように書き写すと『盗作』や『剽窃』となり、犯罪ですので絶対にやめましょう」（152p）と述べられていました。

次に、「新版大学生のためのレポート・論文術」（小笠原喜康著）にもあたってみました。こちらには、「論文は、先人の研究を批判的に乗り越えることでつくられる。そこでまずは、先人の研究をしっかりと読み込まなくてはならない。そして重要な点を引用しなくてはならない。そのうえで、分析・批判をして自分の考えを出していく。それが論文である。そのため、十分に読み込んでいると、先人のコトバが自分のコトバになることがある。しかしそれは、コピペとはいわない。コピペであるかどうかは、その論理展開にある。コトバばかりではなく、論理までも先人のものでしかないなら、それはコピペである。だから論文には、必ず自己主張が必要になる」（45p）と述べられていました。

これら2つの引用から何がいえるでしょうか。レポートを書くうえで

は、まずテーマについてよく調べることが必要です。そして調べたものを引用してレポートに取り込むことは「きちんと調べた上で書いている」ことを示す証拠にもなり、良い方法だといえるわけです。ただし、書いてあったことをそのまま取り込んでしまえば「盗作・剽窃」になるわけですね。このことについて2つ目の引用では「論理展開まで先人のものではないなら」と警告しているわけです。要は、引用文をいくらならべても他人の考えを紹介しているだけで自分の理解したことを述べたことにはならないので、引用をしたならその後に引用した理由や引用文の中で特に大事になる事柄を補足するなど「自分のコトバ」をつけて、あくまで自分の話の流れの中で引用を行うことが大事になるのです。

さて、ここまで綴ってきましたが、私がしてきたことはいったいなんでしょう。そう、『引用文の使い方』を説明するために引用文を用いているわけですね。この作業において私が気を付けてきたことは、「①私見だけを述べるのではない」「②参考になる資料を探す」「③1つの参考資料ではなく、複数の参考資料にあたって、それらを比較対照し、共通点や相違点をまとめる」とまとめられます。

特に皆さんにも行っていただきたいのは③です。教科書を読めば内容の理解はできるでしょう。ただし、その学びを深めていくためには、「他のものではどう書いているか」を探すことも必要です。「教科書に書いてあることが本当に正しいか他の本を見て確認しよう」を疑ってかかるくらいでいいのです。逆に言えば、教科書1冊しか手元にないのでつつい教科書の表記をそのまま取り込んでしまい、「論理展開も教科書のまま、文章を間引いて短くしただけ」となったりするのではないのでしょうか。「Aにはこう書いてある、Bにはこう書いてある、まとめると〇〇といえる」、こうした形の書き方ができるようになると、他者の意見と自分に意見を区別し、様々な情報を踏まえて自分の意見を述べていることを読み手に伝えることができるわけですね。

では最後に、これまで書いてきたことを（皆さんがしなければいけないように）レポートっぽい形式にまとめてみます。なお文献の参照の仕方は、心理学での一般的な方法に基づきます。うまくまとめられているでしょうか？

レポートにおいて引用するにはどのようなことに気を付ければよいだろうか。このことに関して山田・林（2011）は「入手した文献から、自分で考えたかのように書き写すと『盗作』や『剽窃』となり、犯罪ですので絶対にやめましょう」と述べている。また、小笠原（2009）は、「論文は、先人の研究を批判的に乗り越えることでつくられる。そこでまずは、先人の研究をしっかりと読み込まなくてはならない。そして重要な点を引用しなくてはならない。（中略）そのため、十分に読み込んでいると、先人のコトバが自分のコトバになることがある。しかしそれは、コピペとはいわれない。コピペであるかどうかは、その論理展開にある。コトバばかりではなく、論理までも先人のものでしかないなら、それはコピペである。だから論文には、必ず自己主張が必要になる」としている。これらより、引用する際には他者の言葉を自分のコトバとして自分で考えたかのように書いてしまうことが問題であり、引用と自己主張（自分の理解したことのまとめ等）を区別しつつ自分の論理展開の中で引用を用いることが重要だとまとめられる。

引用文献：

小笠原喜康 2009 新版大学生のためのレポート・論文術 講談社現代新書
山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つのカー ミネルヴァ書房

注：引用文献は登場順ではなく、筆頭著者の名字のアルファベット順にしています。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●ボランティア論 小野 芳秀

- ・ボランティアの定義などが、とてもよく分かった。今回の授業を通してボランティアの大切さや重要さが分かった。
- ・ボランティアを知るためには、福祉・教育・環境など幅広く背景を理解しておくべきだということがわかりました。事例が盛りだくさんで、ソーシャルワークの役割もわかってきました。

●科学的な見方・考え方 大内 真弓

- ・学生の成長を信じて講義してくれる姿勢にモチベーションがあがりました。単にレポートの書き方ではない、根拠を基に論じることの意味がよくわかりました。
- ・レポートを書くときのルールがわかって良かったです。データ等の根拠が必要であることを再確認できました。

●基礎演習 門脇 佳代子

- ・レジュメの作り方を学んだことにより、レポート作成がしやすくなった。

●基礎演習 富樫 進

- ・発表テーマを決める流れ「序論→本論→結論」の考え方について、これまであまり考えていなかったことが頭のなかで整理できました。
- ・さまざまな職業の人と意見を共有できて非常によかった。

●特講・社会福祉学1（介護保険と社会福祉士の課題） 佐々木 裕彦

- ・今、ソーシャルワークがどのような問題をかかえているかがわかった。
- ・他種職としっかりと連携をとり支援していくことで十分な支援ができることが、今回の講義で再認識できた。

●乳児保育（幼保特例講座科目） 富澤 弥生

- ・グループワークを通して実際に月案を作成してみるなど、まわりの方と意見を交換しながらできたことが良かった。
- ・映像を取り入れた授業はとても新鮮で、理解しやすい授業でした。

●地域福祉論 柴田 邦昭

- ・教科書だけでは分からない現場のお話が多く、とても刺激になりました。先生の熱意も伝わりました。